

ヤングケアアラワー支援手厚く

「アドバイザー」を増員



市子ども家庭福祉スーパーバイザーと市ヤングケアアラワー支援アドバイザーに委嘱された野尻学長補佐(左)と原田助教(右)＝春日井市役所で

春日井市

春日井市は、市のこども家庭福祉スーパーバイザーとヤングケアアラワー支援アドバイザーを、日本福祉大学の野尻紀恵学長補佐に再委嘱

し、同大社会福祉学部の原田康信助教に新たに委嘱した。2人に増員することでそれぞれの専門性を生かし、より手厚い助言をしていく。16日に市役所で委嘱状交付式が開かれた。同市は2022年12月か

ら昨年度末まで県のモデル事業としてヤングケアアラワーの支援事業を実施し、小中高生らを対象にヤングケアアラワーセイコンテストを開いた。交付式に出席した野尻学長補佐は、コンテストに寄せられた、ヤングケアアラワーだと打ち明けると家族と引き離されてしまうのではないかと心配しているとの趣旨の作品に触れ、「私もハッとしたエッセー。あなたの意思に反して何かすることはないと子どもに伝わっていなかったのが課題と分かった。よく書いてくれた」と話した。原田助教は障害者を支援する「相談支援専門員」や知多市のスクールソーシャルワーカー(SSW)の経験があり、現在、野尻学長

補佐とともにイギリスのヤングケアアラワーの研究をしている。春日井市には野尻学長補佐が紹介した。原田助教はこれまでの活動の中で、困りごとを抱える家庭に立ち入ることも

あり、ヤングケアアラワーとみられる子どもも見てきた経験を生かし「春日井の現状を見ながら役に立ちたい」と語った。任期は来年3月31日まで。

(長谷川和華)